

令和7年度第1回 倉敷市地域公共交通会議 議事概要

開催概要

開催日時	令和7年6月19日（木） 10時30分～12時00分
開催場所	倉敷市立美術館3階 第2会議室
出席者	委員（代理出席含む）25名 橋本成仁委員、西崎大修委員、山本明子委員、家守豊委員、沼本健一委員、石野正人委員、 （代）伊藤 雄造委員、神宝博委員、（代）小山晃委員、平本清志委員、大林玲嗣委員、 楠本雅之委員、宇田雅英委員、池内丈史委員、（代）高田将太委員、古谷修司委員、 槇尾俊之委員、（代）平尾祐司委員、宮地亮平委員、橋本宜士委員、（代）野田真人委員、 片岡宏仁委員、戸川学委員、藤原貢委員、堀越信宏委員
	その他
	事務局7名、関係者2名
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 挨拶 2 委員紹介 3 開会 4 昨年度の地域公共交通会議の振り返り 5 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> ア 令和6年度 倉敷市地域公共交通会議決算について イ 地域公共交通確保維持事業に係る計画の認定申請について (2) 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> ア 倉敷市における交通政策の取組みについて イ 令和7年度地域公共交通会議のスケジュールについて (3) その他 6 挨拶 7 閉会
配布資料	次第、配席図、委員名簿 資料1 昨年度の地域公共交通会議における議論の要点 資料2 令和6年度 倉敷市地域公共交通会議決算について 資料3 地域公共交通確保維持事業に係る計画の認定申請について （資料3-1、資料3-2） 資料4 倉敷市における交通政策の取組みについて （資料4-1、資料4-2、資料4-3） 資料5 令和7年度倉敷市地域公共交通会議のスケジュールについて その他資料1 幹線交通のサービス維持・向上、利用促進に向けた効果的な情報発信の 取組について（水島臨海鉄道株式会社） その他資料2 2社の取り組みの経過報告について （両備ホールディングス株式会社・下津井電鉄株式会社）

	<p>昨年度の地域公共交通会議の振り返り</p> <p>【事務局から説明】(資料1)</p> <p>質問なし</p>
協議事項	<p>ア 令和6年度 倉敷市地域公共交通会議決算について</p> <p>【事務局から説明】(資料2)</p> <p>質問なし</p> <p>【議決】賛成多数により原案承認</p>
協議事項	<p>イ 地域公共交通確保維持事業に係る計画の認定申請について</p> <p>【事務局から説明】(資料3、資料3-1、資料3-2)</p> <p>(議長)</p> <p>資料3-1の6~7ページの真備地区コミュニティタクシーの目標値設定について、6ページに記載されている利用者数等の目標値は令和8年度と令和9年度で数値が異なっている。また、7ページに記載されている収支や公的資金投入額の目標値は令和8年度と令和9年度で同一の数値が設定されているが、目標数値に間違いはないか。</p> <p>(事務局)</p> <p>目標値については交通計画に基づいた数値を設定しており、収支と公的資金投入額の目標値は令和8年度と令和9年度で同一の数値を設定している。</p> <p>(委員)</p> <p>資料3-1の3ページに記載されている「真備地区コミュニティタクシー年度別推移」で、令和6年度の利用者数は6,868人であるが、今後コミュニティタクシーの利用者を増やしていく取組みは何か考えているか。</p> <p>(事務局)</p> <p>今後利用者を増加させていくために、地域のコミュニティタクシー運営委員会で開催される総会の場で、地域の要望等を聞くとともに、利用促進に向けたお願いをしていきたいと考えている。</p> <p>【議決】賛成多数により原案承認</p>
報告事項	<p>ア 倉敷市における交通政策の取組みについて</p> <p>【事務局から説明】(資料4、4-1、4-2、4-3)</p> <p>(委員)</p> <p>資料4-3のボランティア送迎事業について、無料で利用できるということであるが、タクシー事業者にとってはこの制度を利用する人が増えれば需要が減少することになると思うが、問題ないか。</p> <p>(事務局)</p> <p>ボランティア送迎については、一般タクシーとは異なり、道路運送法の許可を要しない無償運送であり、社会福祉法人等では広域的な取り組みとして、病院やスーパーなどの目的地へ、無償で送迎するサービスを実施している。そういったサービス費用の一部について支援していくことを目的としているものである。身近な生活を支える施設を目的地とするボランティア送迎を利用するか、自由に目的地を指定できるタクシーを利用するかどう</p>

かは利用者が状況に応じて選択することが可能となる。

(委員)

主旨は理解した。大変よい取り組みだと思うが、タクシー業界については特に問題ないということでしょうか。

(委員)

確かにタクシー業界ではコロナ前に比べて輸送人員が30%減少という状況になっており、営業収入も回復していない。人出不足の問題もあり、厳しい状況にあるが、国土交通省も日本版ライドシェアなどの自家用車を積極的に活用しながら交通不便地域の解消に向けた取り組みを進めており、タクシー事業者としてもその主要な担い手として、地域の中での役割を果たしていく必要がある。今回の市の新たな政策も含め、市と事業者で相互に協力して地域の交通の足を守ることが重要であると考えます。

(委員)

資料4-1の「倉敷市補助金交付実績」について、令和6年度に利用実績がなかった「ユニバーサルデザインタクシー（以下UDタクシー）導入支援」と「公共交通利用促進補助」について、いつ頃できた制度なのか。また実績がなかった理由としてはどういったことが考えられるか。

(事務局)

この2つの制度については令和5年度から開始している。「UDタクシー導入支援」については、前年度もタクシー事業者からの相談はあったものの、結局申請には至らなかった。今年度についても事前相談を受けており、現時点で1件が申請予定となっている。また、「公共交通利用促進補助」については、令和5年度にバス事業者より申請があり、バス停設置にかかる支援を行っている。経費の100%を補助する制度ではないことから、それぞれの事業者の状況に応じて、年度によって申請があったりなかったりしている状況である。

(委員)

UDタクシーについては、国は各都道府県のタクシー車両数の約25%の導入率を目指しているが、岡山県内の状況は約7%である。これは、全国と比べて岡山県だけが突出して低いというわけではなく、大都市以外の他県においても類似した状況にある。タクシー事業者の経営が厳しい中、車の代替えをしなければならないということが導入が進まない原因となっている。岡山市でも同様のUDタクシーの補助制度があり、補助限度額は30万円である。事業所で、岡山市と倉敷市に営業所があれば、補助金額が高いほうを優先して導入する傾向がある。要望としては導入がしやすいように、市の補助金額を増額してほしい。UDタクシーの導入は、高齢化社会の中で積極的に導入していかなければならないということは承知しているため、引き続き努力していきたい。

(委員)

「公共交通利用促進補助」について、令和5年度に実際に利用させてもらっており、ゾーンバスの沿線にあるバス停をオリジナルのデザインに変更する際に補助金を活用し、大変評判がよかった。令和6年度は補助金の活用はなかったが、制度としては何かする時には活用できる制度であり、今後も活用を考えていきたい。他の事業所においても積

	<p>極的に活用していただきたい。</p> <p>(副会長)</p> <p>UDタクシーの購入にあたり、国のほうでも上限60万円の補助制度があり、利用にあたってはUDタクシー導入に向けた計画の策定が必要となる。今後導入する際には市の補助制度と併せて国の補助制度も積極的に活用してほしい。</p> <p>(議長)</p> <p>UDタクシーの上限額の引き上げについて、市のほうで何か考えているか。</p> <p>(事務局)</p> <p>前年度も同様の指摘をいただいているが、本市の上限額の設定金額は10万円としており、ご理解いただきたい。</p> <p>(議長)</p> <p>予算をとっていても利用がなければ意味がなく、補助金額を高くして1台でも購入したほうがよい気がするので、引き続き検討してもらいたい。</p>
報告事項	イ 令和7年度倉敷市地域公共交通会議のスケジュールについて
	【事務局から説明】(資料5)
	質問なし
その他	幹線交通のサービス維持・向上、利用促進に向けた効果的な情報発信の取組について
	【水島臨海鉄道株式会社から説明】(その他資料1)
	<p>(議長)</p> <p>説明にあった、軌道を補正するためのマルチプルタイタンパについて、これは1時間あたりどれくらいの長さの補正作業が可能なのか。</p> <p>(委員)</p> <p>1日で実質稼働している時間は夜間の3～4時間であり、1日約500メートル程度の補正ができる。1時間あたりでは約100～150メートル程度と思われる。令和6年度は2日作業を実施し、約1キロ程度の補正を行った。全ての路線の軌道補正には数年かかるが、路線の定期点検については毎月実施している。</p>
その他	2社の取り組みの経過報告について
	【両備ホールディングス株式会社から説明】(その他資料2)
	<p>(議長)</p> <p>2社が協力して色々な取り組みを始めていただいております、倉敷フリーパスについては休日に利用可能とのことなので、是非使ってもらえたらと思う。次のステップとして時刻表の共通化等について検討しているとのことだが、結局利用者がわかりにくいことが、公共交通が使われにくいことに繋がっているため、同じ方向に行くときにどのサービスが利用できるのかといった、総合的な問題の解消に向けて、行政も介入していくべきであるし、交通会議の中でも議論を進めていくべきである。</p>

その他	<p>(副会長)</p> <p>物価高騰の中、今年4月にタクシー事業者から最初の運賃改定申請があり、他の事業者の申請が岡山県内の車両ベースで5割を超えたことから、中国運輸局で岡山県内のタクシー運賃改定に向けて審査をしていくことが決定した。運賃改定に伴い、福祉部門や教育部門等でタクシー運賃の助成をしている場合や、コミュニティタクシーの助成でタクシー運賃を基礎として算定している場合に影響が出てくる可能性があるので、配慮してほしい。</p> <p>(委員)</p> <p>前年度まで実施していた「路線バス・臨鉄無料デー」の実施予定はあるのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>「路線バス・臨鉄無料デー」について、今年度は実施を予定していない。</p>
------------	--